追手門学院大学 校友会会報
SINCE 1966 OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

第74号
平成24年（2012年）9月20日
発行者 〒567-8502
茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学校友会
会　長　平野　昌雄
電 話 072-643-6135
FAX 072-643-6099
URL http://ogu-koyukai.com
E-mail info@ogu-koyukai.com

オリンピック初出場で大健闘 5位入賞!!

シンクロで大活躍

本学国際教養学部3回生の吉田胡桃さんがシンクロナイズドスイミングの日本代表としてロンドンオリンピックに出場しました。

7月9日に大学食堂で壮行会が盛大に開催され、胡桃さんはその決意を語ってくれました。

8月9日と10日、日本時間では深夜になりましたがシンクロのチーム演技に全力を尽くしてくれました。

残念ながらメダルは逃しましたが5位に入賞することが出来ました。

8月22日に凱旋登校し、緊急対談に応じてくれました。

対談は、理事長、学院長・学長、校友会会長と広報委員5名により行われ、和気あいあいに進行しました。

最初に理事長から追手門の代表となって頑張って、最高の演技を見せていただいたことに感謝の言葉が述べられました。学院長・学長からはきびしい状況下、プレッシャーも普通でない中で見事入賞したことをたたえ、リオに続くようにとの要望もありました。

吉田胡桃さんは、オリンピックの心境を「厳しい合宿・練習の結果、行く前は自信を持ってロンドン入りしました。演技終了後、私はやりきった感があり、点数を見るのが楽しみであったくらいです。」と語ってくれました。

北京オリンピックからメンバーが総入れ替えとなり、新チームの中での厳しい合宿と練習の中で成長した日本チームの一員となれた自信が、素晴らしく感じました。

吉田胡桃さんは自身の人生について、「辛い時期を何度も乗り切った時の事を知っているから、自分の成長を楽しみにすることができます。次のステップを考えることが大事で、目標を立てて力をつけていくことが大切です。壁にぶつかったとき友人を始め多くの人々が支えてくれたことでより頑張ることができました。精神的な強みの根源はここにあります。」と語ってくれました。

先輩の巽樹理さんについても、なんでも相談できアドバイスをいただける素晴らしい人、と語りました。

「次のリオに向けて、ロンドンを超える演技をするために、次の試合から頑張ることです。時間はかかるが、必ずステップアップしたい。」と熱く語ってくれました。

プールのない追手門からのシンクロオリンピック選手のことで盛り上がり、大学のプール設置の話になりました。現状の大学では立命・同志社・追手門がシンクロに強いとの話をしてくれました。

「オリンピックを通して自分が得たものをいかしたいし、頑張るのみです。」とのメッセージをくれました。

今回のオリンピックについて一言で表したらという問いに対し、**『挑戦』**という前向きな回答を得ました。

吉田胡桃さんのこれからの活躍を見守り、応援しましょう。

学院長・学長就任に際して

学校法人　追手門学院
追手門学院大学
学院長・学長
坂井東洋男

栄えある追手門学院にお招きいただいたのはこの四月でしたが、着任まもないこの七月に、学院長と学長の兼務という思いがけない重職を拝命することになりました。

校友会の皆様には、竜田前学院長ならびに落合前学長と変わりなく、ご支援を賜わりますように心から願いあげます。

学院はいま様々な重要課題に直面していますが、卒業生の皆様が誇りをもてる母校にすべく微力を尽くす所存です。

卒業生にとって、母校の社会評価は、入学時あるいは在学時のものではなく、そのときどきの「時価」評価によるものです。その意味で、母校である学院は、在学生への教育的責任のみならず、卒業生四万人にも重い責めを負っていることを肝に銘じなければなりません。

昨今、大学のありようは、10年前と比べても大きく様変わりしました。

「舟に刻んで剣を求める」という古代中国の諺があります。

水中にふとしたはずみで落とした剣を、あとで拾いあげようと目じるしを舟べりに刻んでおく愚かしさを揶ゆした諺です。

時代や社会は舟の動きと同じで流動してやまぬもの。

「社会有為」は追手門学院の教育理念であるとともに、学院そのものも社会有為の学院でなければなりません。建学の精神や理念は、確固として動かざるものですが、それを具現化するための教学の組織や仕組みは、時世の移り変わりを視野に入れて改革してしかるべきです。時代や社会の動きに鈍感であってはなりません。

川原理事長と手を携えつつ、改革に励む所存です。

ご支援を賜わりますようにお願い申しあげます。

これからの大学教育の展開について

学校法人追手門学院
常務理事　高尾　典史

この4月から大学担当の常務理事に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

18歳人口の漸減が続く中で私立大学はそれぞれ固有の課題を背負いながら社会の負託に応えることが求められています。本学においても入学志願者減への対応が喫緊の課題でありますが、入試制度の改善や広報の見直しも行いながら、新たな教学組織を作り教学内容を充実させてまいります。

新学部構想についてはそれほど遠くない時期にご披露させていただきますが、ここでは教学の方向性について説明させていただきます。これからの社会の特徴として、グローバル化、雇用の不安定化、予測困難な社会などがあげられます。これらに対応する資質として、狭い専門性よりも能動的に生涯学び続けるための基盤教育の充実が求められます。

グローバル人材育成の一環として、次年度から全学で「国際キャリアコース」を開設します。一年間（2年秋学期と3年春学期）海外の大学（英語圏）で学習するのが特徴ですが、留学に備えた英語学習、日本文化・異文化理解を含む留学前教育を前提としています。

留学後はこのコースに特化した英語教育とキャリア教育を行うことにしています。

本学は5学部8学科構成ですが、学部・学科の垣根が高く、4年間を通して他の学部・学科の学問に触れる機会が限られています。

この点の見直しも急務で、学部・学科という小部屋から脱却して幅広く学習できる仕組みを導入するつもりです。最終的にはリベラルアーツを取り入れた「追手門スタンダード」の構築をめざしています。

副学長に就任して

追手門学院大学
副学長　水藤　龍彦

本学に文学部助手として職を得て以来30年を超えましたが、その間、つい最近まで、こうした任に就くことは想像していませんでした。大学運営の中枢からはつねに離れたところに居るというのが私の変わらぬ立ち位置であったと思います。

そうした私が必要とされるとすれば、それは現在が過渡期だからだといえるでしょう。大学一般を取り巻く厳しい環境のなかで、新学長を迎えて、どのような一歩が踏み出せるのか、わが追手門学院大学は重要な岐路に立っています。

文字通りの馬齢を重ねてきた30年のなかで、1つだけ得た確信があります。それは、どんなに困難な仕事であっても、落ち着いて取り組んでいれば、おのずと、自分に「何ができるか」、「何をなすべきか」は見えてくるというものです。五輪の代表選手のように、あらかじめ金メダル獲得といった高い目標を掲げて……を期待する方には物足りないかもしれません。しかし気負いなしに物事に取り組むことの優位性についても、多くの人々が語っているはずです。

校友会の皆様には、今後さまざまな機会にさまざまなお願いをさせていただくことになると存じます。そのさいには、本学の発展のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

大学危機の時代を超える追手門ブランドの創造をめざして

追手門学院大学
社会学部長事務取扱
小畑　力人

4月1日着任、5月1日より社会学部学部長事務取扱を務めています。先日、新学長が選任されました。

ここに、川原理事長・坂井学長をリーダとして、今日の大学危機を突破できる追手門学院の大学改革を推進するガバナンスが確立しました。その改革ポリシーは、学生第一の大学創りであり、学生、保護者、そして校友のみなさまを始めとする全てのステークホルダーの期待に応える大学創造だと思います。

創立50周年「変わるもん、おうてもん」、その一翼を担う社会学部の改革を進めなければなりません。社会学部は、文化社会学・社会人間学・社会福祉学の三領域、社会福祉士や社会調査士資格が取得できる学部としてスタートしました。今春、社会学部には、私を含め新たに6名の教授が顔を揃え、新たな社会学部の教育創造に取り組んでいます。それは、教育理念「社会有為」の人材の育成であり、何よりも問われているのは、すべての学生の「出口保証」への責任です。

少子化のなかで、大学入学年齢である18歳人口は、205万名のピーク（1992年）から、現在、120万名まで減少しています。それが、100万名を割り込む「下り階段」が始まるのが、「2018年問題」です。そのなかにあっても、「選ばれる大学」として有り続ける追手門ブランドの創造のために奮闘したいと考えています。

追手門学院 後援会の集いが開催されました

7月7日（土）平成24年度学校法人追手門学院後援会の集いが大阪城スクエアの大手前ホールにて開催されました。

第一部の講演として、公立大学として日本で初めて全寮制で国際化された国際教養大学の理事長・学長の中嶋嶺雄先生により『グローバル化の時代と大学』をテーマにお話を伺いました。

続いて、第2回目となる親子3代追手門の感謝状贈呈式があり、内藤様・安田様・山本様が今年度の対象家族となりました。

第二部は場所を移し、最初に第2回高島鞆之助賞の発表があり作家の三田誠広氏が受賞されました。

懇親会は盛会のうちにお開きとなり追手門学院の益々の発展を祈願しました。

追手門学院 大阪梅田サテライト 本格稼働開始！

立　地

阪急梅田駅に直結（阪急梅田ターミナルビル16階）し、JR大阪駅、地下鉄梅田駅やその他の公共交通からも徒歩2～3分と抜群のアクセスです。

開設の目的

京都・大阪をはじめとする全国の大学が梅田周辺で、情報発信拠点としての機能を充実させ、大学院授業の開催や学生の就職支援活動を行っています。母校でも大阪梅田サテライトを新たな拠点とし、学院・大学のブランドイメージの向上や学院全体の広報活動、大学

生と大学卒業生を対象とするキャリア・就職支援、文化学術貢献としての生涯学習支援、社会連携活動など様々な活動に取り組んでいます。

ワンストップ・フルサービス拠点へ

学院の児童、生徒、学生はもちろん保護者、OB、教職員などのすべての学院関係者に喜ばれる、単なる入試広報から脱却した施設作りを目指しています。また、学院の持つ知的資産の公開や公共機関・マスコミとの連携など、従来のサービスから一段高いものを提供することが出来ます。

施設紹介

●ロビーラウンジ（大阪ステーションシティーや、うめきた・グランフロント大阪を望む抜群の眺望…自由に利用できる）

●キャリア相談コーナー

●ゼミ室（20席　会議やゼミに）

●セミナールーム（76席、マイク、プロジェクター、書画カメラ、ブルーレイ完備）

●卒業証明書、成績証明書の発行機の設置

●他大学にはまだ数少ない卒業生のための支援を行っている。卒業生就職支援サービスにご登録すると、自宅のパソコンから仕事検索が可能。

（部屋の使用は要予約）

【問い合わせ先】

大阪梅田サテライト

06・6359・2050

「社会人ゼミ」学びとは何か？

経済学部経営学科

第29期生　鈴木　圭史

書物を書きたいという思いが漠然とありました。書店に自分の名前が並ぶのを想像するとうれしいものです。しかしながら、いざ書くとなると筆が進まない怠惰な自分を情けなく思いはや3年くらい経過したころ、1通のメールをみました。

大学校友会からのメールです。「追大・社会人ゼミ受講生募集」とのこと。大学院ほど敷居の高いものではなく論文を書き、それを発表する場が与えられる。

発表する場があるということは納期を設定してもらえるということ、すなわちいささか飛躍的ではありますがズボラでもしっかりフォローをしてもらえることが期待できます。論文の延長線上に書籍があるのだろうなとの安易な考えで願書を提出してなんと合格しました。

ゼミが開始してから半年ほどたちましたが非常に実り多き時間をすごしています。論文を書くための学びはもちろんですが、同じクラスの受講生からも学ぶことが多々あります。最年長はアイパットを使いこなす79歳のご婦人です。アイフォーンのフリックがスムーズでない私とは雲泥の差があります。その他、企業経営者・NPO法人理事長など7名のバラエティー豊かな人材が集まっており、ディスカッションをしていると多面的な意見がでて非常に楽しいです。

学びとは何かというのを考えさせられます。現在は第2期生が受講中でまだまだ運営方法を模索中ということもあり、決まりごとが少なく自由度が高いです。

みなさんも一度、検討をしてみては？

追大型生涯学習（社会人ゼミ）の試み

追手門学院大学経済学部

准教授　李　義昭

平成23・24年と経済学部では、講義および演習講座（ゼミ）に参加することを希望する社会人を一般に募集し、人生や社会活動の経験を整理・理論づける、コミュニティビジネス・ボランティア団体・NPO法人を立ち上げるなどの「演習テーマ」に沿って、学習・調査・研究などを行おうとする社会人を対象に演習クラス（社会人ゼミ）を設けている。

この試みは、大学の地域貢献の一環として社会人学生に生涯学習の機会を提供することにより、本学一般学生の学習意欲の向上、社会的見識の熟成など教育開発の効果に期待するものである。特に、社会人学生と一般学生が、共有の目的をもって学習・研究における交流を行う。すなわち、一般学生が研究・卒業論文を完成させる目的をもって、日々の講義に出席しているように、社会人学生も同じ目的をもって、講義や演習に参加する。

平成23年度　社会人学生の概要

●性別：男7名　女2名

計9名

●年齢：79歳～35歳

●社会経験等：市会議員、僧侶、NPO代表・職員、ボランティア団体代表、障がい当事者、主婦、ODA海外協力体験、地域団体役員など

●研究　テーマ：

「縄文時代から江戸時代まで（手作りの農民）」

「地方中小都市における、地方自治体の財政政策と市民との経済的関係の研究」

「キャリア形成支援メソッド（7つの智慧）」

「ホリスティックに生きる～ベニシア・スタンリー・スミス京都大原里山暮らしを通して～」

「宗教の公益性～シューマッハの宗教経済から～」

「グローバル経済の人間的側面」

「明石市の高齢化と福祉について」

「障がいがあっても地域で暮らせる社会」

「着物リメイクでお洒落を楽しむ」

2012年度 春学期末 学位授与式

9月27日（木）午前10時30分より、1号館3階会議室において、2012年度春学期末学位授与式が挙行されます。

引き続き、食堂棟3階に場所を移し、午前11時30分より教育後援会主催の卒業謝恩パーティーが開催されます。校友会からは、記念品として卒業アルバムが贈呈されます。

2012年度 校友会関係行事について（予定）

10月6日（土）中国支部総会・懇親会【岡山】

11月3日（土）6期生還暦同窓会【大阪城スクエア】

11月4日（日）総会及びホームカミング・デー（後援）

11月10日（土）東京支部総会・懇親会【東京】

12月上旬　現役学生との懇談会及び学生に対して校友会表彰式

3月上旬　校友会会報（第75号）発行

2012年度 大学関係行事等について（予定）

10月6日（土）追手門学院大学アワー　in　岡山

10月14日（日）入試直前相談会

10月下旬～11月下旬初代学長　天野利武展（将軍山会館）

11月3日（土）～5日（月）大学祭

11月4日（日）ホームカミング・デー

11月10日（土）追手門学院大学アワー　in　東京

12月16日（日）入試直前相談会

3月25日（月）学位授与式及び卒業謝恩パーティー

大阪城スクエア　催し物案内

1．**追手門学院　大阪城スクエア「アドバンスト・リサイタルシリーズ」**
Vol.7誓山由樹　チェロ・リサイタル
出演：誓山由樹（チェロ）、川田健太郎（ピアノ）
日時：10月13日（土）11:00～12:00　入場料：無料　定員：100名

2．**心の教育「スペシャリストになる」－学院同窓生による連続講演会－**
第11回「音楽の内（なか）に生きる」
講師：湯浅卓雄（指揮者、東京藝術大学、演奏芸術センター教授）
日時：10月19日（金）18:30～20:00　受講料：無料　定員：200名

3．**第49回学校経営管理セミナー**
「機能とデザインを考えた新図書館構想」
講師：村上亨（追手門学院大学附属図書館長）、
高畑悦子（追手門学院大学附属図書館事務長）
日時：10月20日（土）14:30～16:30　入場料：1,000円　定員：100名

4．**和学講座「大倉源次郎　小鼓の世界」**
講師：大倉源次郎（大倉流小鼓方十六世宗家）
日時：10月24日（水）18:30～20:00　受講料：1,200円　定員：100名

5．**ファミリークラシックコンサート**
Vol.8　マーニャ＆ストリングス　その2
出演：ダヌーツ・マーニャ（ヴァイオリン）、追手門学院大阪城スクエア室内アンサンブル
日時：10月27日（土）14:00～15:30（開場13:30）
入場料：500円（高校生以上。小学生・中学生無料）定員：400名

6．**追手門学院　大阪城スクエア「アドバンスト・リサイタルシリーズ」**
Vol.8大西由起　トランペット・リサイタル
出演：大西由起（トランペット）、武知朋子（ピアノ）
日時：11月17日（土）11:00～12:00　入場料：無料　定員：100名

7．**心の教育「スペシャリストになる」－学院同窓生による連続講演会－**
第12回「自信～自分を信じること～」
講師：六車奈々（女優、タレント）
日時：11月16日（金）18:30～20:00　受講料：無料　定員：200名

8．**和学講座「河村晴道に学ぶ　平家物語と能～「通盛」より」**
講師：河村晴道（観世流シテ方）
日時：11月28日（水）18:30～20:00　受講料：1,200円　定員：100名
※申し込み・資料請求・お問い合わせ
追手門学院　大阪城スクエア
TEL 06-6942-2788／FAX 06-6942-2744

大阪梅田サテライト　催し物案内

1．**第2期　吉田寛塾「時代を読む・自分史の会」**
開催：2012年10月～12月　3ヶ月コース（土曜開催）計4回コース
時間：午後2時～4時　受講料：追手門学院大学の関係者は無料
場所：追手門学院　大阪梅田サテライト　Tel：06－6359－2050
日程及び講座日次
第1回　10月13日「発想の転換と実践」
第2回　11月10日「未来志向と戦略」
第3回　11月24日「未来志向と戦略」
第4回　12月8日「パクス・アメリカーナの時代」

追手門学院大学　催し物案内

1．**追手門学院大学創立50周年記念「自校教育のいま」**
日時：12月8日（土）13:30～16:10　会場：追手門学院大学　学生会館
入場料：無料　定員：350名
【基調講演】講師：寺﨑昌男
（立教学院本部調査役、東京大学・桜美林大学名誉教授）
【実践報告】講師：大川一毅（岩手大学評価室准教授）
【シンポジウム】パネリスト：寺﨑昌男、大川一毅、梅村修
実践報告：梅村修（追手門学院大学国際教養学部教授）

校友会の発展に尽力された

追手門学院大学校友会 栄誉顧問　故 佐藤 良和先生を偲んで

佐藤先生と共有の思い出を持たれている方は、数知れずおられると思います。また、その方たちにとってもご自分だけの特別な存在であったであろうと推察いたします。

先生は、茨木市で20年余り生涯学習センターで講義をされ、そのほか公開講座、その後市民講座を続けておられました。上海には何十回も渡航され大学や学校で講義をされたり会議に参加されていたと聞いています。

先生は大阪偕行社附属小学校から同じ偕行社附属中学校（現同志社香里中高校）そして同志社大学工学部を卒業後、昭和27年追手門学院中学部に奉職され、昭和39年からは同高等学部に移られ化学の教諭として追手門学院の生徒を育ててこられました。その後追手門学院大学に移り、教育研究所で活躍されました。昭和47年には追手門学院大学大学院文学研究科に入学され、心理学を学ばれました。ここで教えることと教わることの両面を体験し、この事があとあと役に立ったとおっしゃっておられました。

平成元年から三重大学人文学部の非常勤講師を7年間、ニューヨーク国連本部へは8年間、国際的課題に対する学習のため通われたそうです。

パシフィック・ウェスタン大学博士号取得時

私と佐藤先生は大学校友会を通してのご縁でした。当時は先生が大学校友会の事務局長として事務全般を取り仕切られており、数々の難問も先生のお力で乗り越えてこられたように思います。

校友会館のそばにある、追手門学院大学初代学長の天野利武先生の胸像建立も先生の発案により企画され、校友会から大学に寄贈されたものです。

校友会には創成期からかかわってくださり、先生がお持ちの組織作りのノウハウを一から教えてくださいました。

とくに、校友会の財政的基盤を築いて下さったのは先生のお力によるものでした。

上海師範大学の校友会と友好を深め、中国音楽団を来日させコンサートを開いたことは一昔前の事となりました。大学にとっても国際交流のはしりだったと思います。

晩年、印象に残っているのは先生とご一緒に上海師範大学を訪問した時のことです。

先生は既に数えきれないくらい上海に渡航されていたのは承知していましたが、先生に対する上海師範大学の歓迎ぶりには先生との固い絆を感じずにはおれませんでした。それにもまして普段は冷静な先生が子どものようにはしゃがれ、より一層饒舌になられたのを拝見して、先生の万感の思いがひしひしと伝わってきたのを思い出します。

三十数年に亘った校友会を通してのお付き合いではありましたが、数えきれないほどのご指導と想い出を遺して往かれました。佐藤良和先生のご冥福をお祈りいたしております。

先生は平成24年3月22日ご逝去されました。享年84歳でした。

追手門学院大学　校友会
会長　平野　昌雄

新役員候補者推薦のお願い

校友会選挙管理委員長　二期生　経済学部経済学科卒業　一本松　伸

現在の校友会活動をお世話している現役員の任期が平成25年3月末をもって満了します。

本会会員は新しく役員を選出する必要が有りますので、本会会則（選挙細則は裏面に掲載しています）第九条の第六項に従い、平成25年（二〇一三年）4月1日より、平成29年（二〇一七年）3月末迄の四年間本会をお世話戴く役員（評議員）候補者の推薦をお願いします。

追手門学院大学は平成28年（二〇一六年）に開学五十周年を迎え、大きな節目となります。追手門学院の教育理念『独立自彊・社会有為』にのっとり母校は大きく変身してゆくことが予想されます。その伝統から培われた心の絆を糧に、胸を張って誇れる母校を目指し、私たちの校友会活動を担って戴く役員を各卒業期、学科、ゼミ、クラブ、同好会などから選出ご推薦下さるよう、お手数ですがお願い申し上げます。

新役員選出の手順

1、このページ下部の「新評議員推薦用紙」（コピー不可）を切取り、必要事項を記入の上推薦者が自署捺印して下さい。

2、封筒に「校友会選挙管理委員会」宛と記入して「推薦用紙」を封入し、80円切手を貼って日本郵便にて送付して下さい。（ファックス・持参は不可）

3、新評議員推薦の締め切りは11月10日（土）の消印まで有効としますので、本会の選挙管理委員会まで送付して下さい。

4、選挙管理委員会では、委員立ち合いのもとに開封して卒業期別に推薦を受けた評議員候補者名簿を作成し、候補者に受諾の意思を確認後、名簿を公開します。公開はホームページ上で行います。期間は12月20日から翌年1月10日まで

公開アドレスは
http://osu-koyukai.com/senkyo/

5、候補者名簿をご覧いただき、異議申し立てがあれば必ず封書にて異議理由を記入の上、1月20日必着で選挙管理員会宛送付して下さい。

6、定められた期間内に異議申し立てが無ければ、新評議員とし発表いたします。

送付先
〒567－8502
追手門学院大学内 校友会
「選挙管理委員会」宛
郵便番号だけで届きます

下記新評議員候補推薦用紙を切り取って封書にて選挙管理委員会宛送付願います。
記入上の注意事項は推薦用紙の裏面を参照お願いします。

キリトリセン

平成25年4月よりの新評議員 推薦用紙

被推薦者（推薦を受ける会員）のご姓名を正確にお書入れください。

年度	
学部	
学科	
住所	〒
電話	

卒業年度・学部・学科・住所・電話番号などをご存じでしたら下にご記入ください。

上記の校友会会員を新評議員に推薦いたします。

推薦者（ご推薦くださる会員）のご住所・ご姓名・卒業年度と学部・学科・会員番号を下の欄にご記入の上　必ずご捺印ください。

ご住所	〒
ご姓名	㊞
卒業年度	
学部学科	
会員番号	

追手門学院大学校友会

この用紙を「住所変更など」に使わないでください。

会員番号はお送りしている封筒に記載されていますが、詳しくは裏面をご覧ください。

郵送の場合の「のりしろ」③

郵送の場合の「のりしろ」①

郵送の場合の「のりしろ」①

追手門学院大学校友会　プロフィールシート

平成　　年　　月　　日現在

会員番号			
ふりがな			
氏名		電話番号	
旧姓		携帯電話	
ふりがな			
住所	〒		
E-mail（PC）	@	E-mail（携帯）	@
期生	学部	学科・専攻	
クラブ名		ゼミ名	
勤務先名		業種	
勤務先所在地		勤務先電話番号	
勤務先URL		部署	

住所等に変更が	①　あり	②　なし

次に列挙する校友会主宰（在校生・卒業生向け）のイベント等についてご協力を頂けますか？		
社会人としてのキャリアアップセミナー講師	□ 可	□ 否
キャリアアップに関する個別のアドバイザー	□ 可	□ 否
会社訪問・会社見学のご協力	□ 可	□ 否
プレインターンシップへのご協力	□ 可	□ 否
インターンシップへのご協力	□ 可	□ 否
学生アルバイトの受け入れ・ご採用	□ 可	□ 否
新規学卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	□ 可	□ 否
大学既卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	□ 可	□ 否
留学生の観光などのご協力	□ 可	□ 否
留学生の受け入れ（ホームスティ等）のご検討	□ 可	□ 否

■ご職歴・得意分野・その他（ご協力内容）
■保有資格・趣味・社会活動など

当該プロフィールシートにて得た情報は大学校友会の活動においてのみ使用致します。

郵送の場合の「のりしろ」④

郵送の場合の「のりしろ」②

郵送の場合の「のりしろ」②

キリトリセン

追手門学院大学校友会評議員選挙細則

本会評議員の選出について、本会会則の第21条に従って、ここに選挙細則を定める。

［選挙権者と被選挙権者の範囲］

第１条　本会の役員選出の基盤となる評議員選挙については、会員の推挙推薦によって、評議員候補者を選び、会員の同意を得て決定するものとする。
第２条　本会会員中、正会員のみが本会評議員の推挙推薦権を持つ。
第３条　本会会員中、正会員のみが本会評議員候補者として、本会会員の推挙推薦権者より、推挙推薦を受けることができる。
第４条　前条の本会評議員候補者の内、次に該当する会員は、本会正会員より推挙推薦があったとしても本会評議員候補者としての資格を失う。
①本会終身会費を納めていない会員
②選挙管理委員会が不適当と判断し、それを理事会が了承した会員

［選挙管理委員会］

第５条　本会評議員選出に際しては、選挙管理委員会を設置する。
第６条　選挙管理委員長は、正会員中より常任理事会が委嘱する。選挙管理委員長には、被選挙権はない。
第７条　選挙管理委員会委員は、選挙管理委員長が委嘱する。
第８条　選挙管理委員会は、本会正会員からの評議員候補者の推挙推薦に関しては、公正かつ厳正に事務を行う。
第９条　選挙管理委員会は、選挙の中身を公開する。但し、会員の人権に関わる内容については公開しない。

［選挙方法］

第10条　本会正会員は、事前に送付した「評議員候補者推挙推薦書」の所定の項目に記入の上、捺印し、封筒に入れ、所定の期日までに選挙管理委員会宛に郵送すること。郵送以外の方法による推挙推薦は認めない。
第11条　選挙管理委員会は、期日を定めて、次の事を行うこと。
①本会正会員から所定の用紙を用い、郵送されてきた「評議員推挙推薦書」に記載されている事項を検証して、評議員候補者一覧表を作成する。
②本細則第４条による評議員候補適格者に、本会評議員の資格を受けるかどうかについての問い合わせを行う。受諾を拒否されたときは、評議員候補者一覧表から削除する。
③評議員候補者一覧表を、速やかに本会正会員に公示し、意義申立てを求めることとする。
④前項３の結果を、速やかに本会理事会に報告することとする。
第12条　前条の取り扱いを総て修了した段階で、選挙管理委員会は評議員候補者に対し、「評議員就任承諾書」を送り、その回答を本会会員に告知するものとする。

付　則

１　この細則は平成８年（1996年）６月30日の本会理事会で決定し、同年９月１日より施行する。
２　この細則の変更は、本会理事会の３分の２以上の同意を得なければならない。
３　この細則は平成20年（2008年）８月31日の本理事会で決定し、同年９月１日より施行する。

キリトリセン

会員番号は宛名ラベルのここにあります

新評議員候補者推薦用紙　記入上の注意

1．推薦する会員名を正確にご記入ください。
2．被推薦者の連絡先は選挙管理委員会から連絡を取るために必要ですから出来る限りご記入お願いします。
3．推薦者は必ず自署のうえ捺印してください。
4．推薦者欄の会員番号は絶対必要です。上記サンプルを確認ください。。未記入の場合は推薦無効となります。
5．推薦用紙の送付は必ず封書で行い、2012年11月10日消印まで有効とします。80円切手貼付けの上、日本郵便にて必ず投函お願いします。

活躍する校友(12)

ソーシャルメディアで繋がる輪・和

現在、大学の国際交流教育センター事務室に勤務しております、難波純子（旧姓　岡田）と申します。追大を'93年に卒業後、ご縁をいただき事務職員として約19年お世話になっております。今まで、学生関連・財務・入試広報といった業務を経験しました。こうして文字にしてみると、改めて長きに渡り母校のお世話になっていることを実感し、感謝の念が絶えません。

最近、ソーシャルメディアのfacebookを通じて卒業生や知り合いの方から思いもかけずお友達申請をいただくことが増えました。どうしてもご連絡を取りたいと思いながらも手段がなかった方から、思いがけずお友達申請をいただき感動したり、やり取りの途絶えていた留学先の友人と繋がるなど、今やソーシャルメディアは生活に欠かせないものとなっています。私は学生時代インドの交換留学生としてグジャラート大学に派遣されていたのですが、現 在facebookに「Sakura/Mahabharat-Otemon-Gujarat Exchange Program OB/OG」という非公開サークルが展開されており、私もメンバーとして登録されています。そこでは世代を超えて、インド・日本両国の交換留学関係者が旧知を温め、日常のトピックスを分かち合い、交流を深めています。

自身は、元々業務でホームページを担当していたことから興味を持ち、使い始めたソーシャルメディアですが、災害等緊急時のコミュニケーションツールとしても注目しています。ソーシャルメディアは一歩間違えると炎上や個人情報の流出の危険性があるなど、決して万全・安全なツールではありません。しかし、定められたポリシーやガイドラインを遵守し、冷静な投稿を心がければ、瞬時に人と繋がることができ、コミュニケーションの幅が広がる魔法の道具です。iphoneやi pad、tabletなどのモバイルツールがあれば、いつでもどこでも友人達とやり取りができますし、仕事で知り合った方達ともfacebookを通じて情報や意見の交換をしたり、時には勉強会を開催してオフラインでも会うなど、楽しみながら使っています。

プライベートでは、3人の子ども達の母親となり、子育てという視点からも教育の大切さを考える毎日です。特に学生対応の部署では様々なバックグラウンドや個性を持つ学生に接します。親の気持ちや子どもの気持ちといった様々な立場が理解できること、そして子育ての経験は、仕事にマイナスになるどころか逆にとてもプラスに働いていると感じることが多々あります。

教育機関で働くことの喜びや目的のひとつに、「人の成長に貢献したい。一人でも多くの学生に、成長することの喜びを知って実感してほしい」というものがあります。教育の成果は、可視化できるものばかりではなく、答えがひとつでもありませんが、事務職員という立場から、一人ひとりの学生の成長に何ができるか、何が必要か、と日々自分に問いながら業務にあたっています。

追大生の特徴として、「おとなしい」「素直で周囲との輪を重んじ、気配りができる」と、学内外から評判を耳にすることがあります。素直で周囲の空気を巧みに読み、謙虚で人間関係のバランス感覚に優れた追大生像については、私は大好きでいつも好感を持っています。なぜなら、自己主張ばかりが強くても相手に対する配慮ができなければコミュニケーション能力が高いとはいえないからです。人と競り勝つことが注目されがちですが、「和」のセンスを持てるのも大切な人間力なのではないでしょうか。

今年2012年はオリンピックイヤーでした。金メダルの数では世界に伍することはできませんでしたが、日本選手団の「チーム力」が注目されました。本学からも吉田胡桃さんがシンクロナイズドスイミングの選手として出場しました。後輩の活躍に目標を持ち努力することの大切さを学びました。また「和」の総力がチーム力の向上に繋がることから、今後も後輩を様々な角度からサポートするために、卒業生の方々とゆるく繋がり広がっていければと思っています。よろしくお願いいたします。

国際交流教育センター
事務室　難波　純子
（1993年3月卒）

のりしろ③

【送付先】
表記の宛先に「申し訳ありませんが」の「ろ」を「糊付けはしないでお送ください。
郵便局窓口にてお切手不要です。
表記有効期限は、切手不要です。

のりしろ

のりしろ④

567-8502
大阪府茨木市西安威二丁目一番十五号
追手門学校友会
電話 072(641)1131(代表)
FAX 072(643)6099

料金受取人払郵便
茨木支店承認
6115
差出有効期限
平成26年8月
31日まで

567-8790

受取人
大阪府茨木市西安威二丁目一番十五号
追手門学院大学校友会
事務局（庶務課）行

のりしろ⑤

山折り

山折り

キリトリ

平成24年度　九州支部総会の鹿児島での開催を終えて

九州支部長　岩崎　陽一

新幹線の開通で名実ともに熱くなっている鹿児島の地で本年度の総会を開催でき、本支部が九州各地で開催したいという目標に近づきつつあると同時に開催地の若い会員の皆さんの参加に感謝しています。

桜島の灰に自然の驚異を感じながらも鹿児島らしさに感動しつつ総会をすすめることができました。

総会では、主に次の三つの内容について提案および広報を行い、九州支部の各校友のご理解とご協力をお願いしました。

①大学創立50周年記念事業への協力依頼

②支部活性化のための若年会員の参加促進プランの企画と実践

③支部役員の計画的世代交代

以上の3点は、理解を得つつも今後も継続して推進および改善を図ることを確認して総会を閉じました。

今回は、東京支部・京都支部・四国支部からもご参加いただき各支部の活動を参考にする事ができ次回への期待が膨らんだところです。当支部の総会の開催に際しましては鹿児島の大平卓氏はもとより、当支部青年部長の木屋理恵氏、支部長補佐の林えみ氏らの献身的なご協力により無事終了できました。ご参加ご支援下さいました皆様方に心よりお礼申しあげます。有り難うございました。

校友会九州支部懇親会

古川　純平（32期生　文学部）

6月9日、鹿児島で行われた追手門学院大学アワーと九州支部懇親会にはじめて参加しました。追手門学院大学アワーでは学院創設者である高島鞆之助先生の歴史について理解を深め、懇親会ではその理解が吹き飛ぶほどの笑いと関西弁が飛び交う楽しい宴席となりました。校友会役員の皆様、OB、OGのみなさん方と親睦を深め、在学中講義を受けていた高尾常務理事ともお会いでき、本当に有意義な時間を過ごすことができました。

このような会に参加できたのは、昨年の校友会九州支部との出会いがあったからです。

少し私の経緯を話しますと、大学卒業後、福岡の国際NGOに参加しカンボジア現地での駐在員活動や日本で講演活動などしていました。その中で昨年出会ったのが国兼先輩でした。国兼先輩はすぐに支援活動のひとつである「書き損じハガキ回収プログラム」への協力を申し出て下さり、あちらこちらへ電話をかけられました。その数日後に参加した九州支部懇親会で岩崎支部長に初めてお会いしましたが、支部長は会ったことのない私のために、ハガキを500枚以上も集めて持って来てくれました。国兼先輩から電話を受けた後、校長をされていた小学校内や地域で呼びかけ集められたとのことでした。

卒業生それぞれ、追手門学院大学への愛着というか思い入れは違うのでしょうが、追大卒業生というバックグラウンドによって、世代の違う先輩後輩がつながり、新しい世界を作るのだと知りました。来年の支部総会・懇親会では、さらに多くの先輩後輩と九州で会えるよう願っています。

将軍山オータムコンサート46

大学オープンキャンパスが開かれた9月17日に昨年に続き第2回目となる「将軍山オータムコンサート46～魅せましょう！くつろげる小高い丘の音楽会」が将軍山会館の中庭を会場に12：00～13：00のランチタイムに開催されました。OBと現役学生とが企画し出演する内容のコンサートで、ギター部のアンサンブルとアメリカ民謡研究部OBバンドの「MINDS・マインズ」の演奏が当日、将軍山会館を訪れた皆様方を魅了しました。ギター部の田中さんは「ジャンルにとらわれない美しく楽しいアンサンブルの演奏を心掛けます」と話してくれました。

又、企画に参加してくれました文化会情宣局長の市原さんの「この様な企画を通じて部活内容を理解頂き多くの新入生が入部してくれる事を期待します」とのコメントが印象に残りました。

来年も現役学生諸氏との共同企画を是非実現したいと強く感じました。

平成24年度 京都支部総会・懇談会に参加して

文学部東洋文化学科　清水　弘美（6期生）

去る7月21日に京都支部総会が開催されました。祇園祭の喧騒が去り五山送り火までの束の間の一日でしたが、老若男女関係なく楽しく語らい大いに飲み心底から笑い、本当にすばらしい時間を過ごさせていただきました。

私自身、卒業して四十年近くもなるのですが、今回が初めての参加でした。クラスメートであった九州支部長の岩崎君から「ただ酒を飲むだけ」という甘いお誘いがあったからです。しかし、忘れていた追手門学院を思い出させることとなりました。

まず、岡支部長のご挨拶に始まり参加者全員の自己紹介がありました。遠方より各支部長の参加もあり校友会活動の広がりを知り、私自身恥じ入る思いでもありました。特にその中でも追手門学院高尾常務理事のお話には校友会に寄せる期待と今後のビジョンを示されたものと思っております。それは、認定こども園の創設により「ゼロ歳児から大学院までの一環教育」を熱く語られておられることでした。

私ども企業人の一員として一番の課題は次世代を担う人材育成です。しかし企業の教育はマナー教育に代表されるように表面的であり実利的なものです。本当は苗木を育てるが如く人間としての基本教育が肝要ではないでしょうか。

今後、追手門学院の目指すところの一貫教育に期待しつつ、私ども企業人もできる限りの応援を送りたいと思っております。

根拠のない自信

赤尾　辰也（42期生　心理学部）

7月21日に京都で行なわれた追手門学院大学アワー京都に参加しました。講師として元ラグビー日本代表キャプテンとして活躍された大畑大介氏です。大畑氏は2012年の6月から追手門学院大学地域文化創造機構の客員特別教授として就任されました。今回は『根拠のない自信』を信じろ！」というテーマで講演をしてくださいました。

前半ではこれまでの人生経験を基に学んだことや心がけていることをお話くださいました。選択肢があるならしんどいほうを選ぶ、「自分はできる」という自信を持って自分の殻を破るためにやりきる、という人生の教訓となるようなお話をされていました。自分も勉強になるという思いでいっぱいでした。

後半では追手門学院大学社会学部の千葉英史准教授とのトークショーが行なわれました。千葉准教授もラグビーに携わっておられるのでラグビーの話を中心に大畑氏の幼少期の話や今のラグビー界の話をうまい掛け合いで行なっていました。

トークショーの話題で大畑氏は追手門学院大学で新しくできる女子ラグビー部の顧問になられます。自分をここまで育ててくれたラグビーに恩返しがしたいという気持ちと自分がなにかをしたいという想いから、将来日本代表を出せるような選手を育てるチームにしていきたいとのことでした。日本代表キャプテンとして活躍された経験を追手門学院大学のために発揮していただき、世界に羽ばたく選手を育てていただけることを期待しています。

第6期生　還暦同窓会案内

6期生「還暦同窓会」を開催致します。

会場は、大阪城のすぐそばにある追手門学院の施設「大阪城スクエア」の「大手前ホール」にて開催いたします。

多数のご参加をお待ち致しますとともに、お手伝いをお願いできます方々を募っております。

ぜひ、校友会事務局072・643・6135まで、お申し出くださいますようお願い致します。

記

期日　11月3日（土曜日）
時間　午後1時受付
　　午後1時30分開宴
場所　追手門学院大阪城スクエア大手前ホール
住所　大阪市中央区大手前1―3―20
会費　五千円

現役学生からの投稿記事

在学生×卒業生の〝しゃべり場〟

追手門学院大学、心理学部心理学科4回生の西川大樹と山下貴弘と申します。

今回、卒業生の皆様にお願いしたいことがあり、この場をお借りさせていただきました。

現在、校友会には4万名もの会員の方がいらっしゃり、様々な分野でご活躍されているかと思います。

そして、追手門学院大学にも夢に向けて頑張っている学生、様々なことにチャレンジしている学生がいます。吉田胡桃さんのようにスポーツに励み、オリンピックへ出場した学生、就活で悩んでいる学生のために学生団体を立ち上げ支援を行っている学生、社会問題の解決や教育分野の活性化を志す学生など、精力的に活動しています。

しかし、活躍されている卒業生の皆様と、頑張っている在学生がつながりを持つ場は今までありませんでした。

そこで、私たちは在学生と卒業生がつながる場として〝しゃべり場〟を創ることを考えております。

〝しゃべり場〟は一方的な講演ではなく、在学生と卒業生がお互いのことを自由に語り合う、素晴らしい人生を歩むためのつながりを得る場にしたいと思っています。

〝しゃべり場〟を創ることによって、今まで結びつかなかった在学生と卒業生が出会い、将来の仕事のパートナー、趣味の仲間、未来の相棒を見つけることが出来ると考えています。

追手門の学生が先輩方と語り合うことで、自分の進むべき道を定め、それに向かって行動する学生が増えれば、きっと魅力的な母校になると信じています。

これまでの経験を話していただき、これからの進路や目標を語り合う。私たちは人生を楽しんでいる方々に、是非とも〝しゃべり場〟へお越しいただきたいと考えています。

ご参加希望やご質問の際は、担当の山下（takahiro.yamashita@gmail.com）までご連絡いただけると嬉しく思います。

皆様とお会いできることを、心から楽しみにしております。

校友会総会とホームカミング・デー

校友会総会が開催されます。校友の皆さん、ふるってご参加頂き、貴重なご意見もお待ちしております。

また、総会終了後、ホームカミング・デーも開催されます。先輩、後輩をはじめ、なつかしの、そして新しい教職員さんとも会えるチャンスです。短い時間ですが、変貌を遂げたキャンパスとともに存分にお楽しみください。

校友会総会

日時：11月4日（日）　11時より

場所：食堂棟3階　スタッフルーム

ホームカミング・デー

日時：11月4日（日）　12時より

場所：食堂棟1階

追手門学院大学の『思い出』が眠っていませんか？

追手門学院大学は、2016年4月で創立50周年を迎えます。

大学では、これを機に、大学創設から50年の軌跡をたどり、もう一度大学創設の原点を見直し、更なる50年に向けての出発点とすべく、「大学創立50年史並びに記念DVD」を作成することになりました。

皆さまのご家庭で眠っている大学に関する貴重な映像や写真（当時の記念映像〈8ミリ、16ミリフィルム〉、ゼミナールやクラブ活動の写真・資料等）がございましたら、ご寄贈、ご貸与いただきますようお願いいたします。

問い合わせ　大学事務部（庶務課）　担当　森・山本

電話　072・641・9668

大学創立50周年記念事業募金のお願い

大学は2016年に創立50周年を迎えます。卒業生の皆さまには、すでにai第3号にて、大学創立50周年記念事業募金に係る趣意書・振込用紙等を同封いたしまして、ご協力をお願いしております。50年を迎え、大学は更なる教育力の向上や教育施設の充実に向けて邁進していく所存です。卒業生の皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。なお、趣意書・振込用紙等につきましては、再度必要な方には送付させていただきますので、下記までご連絡ください。

問い合わせ先
創立50周年記念事業事務局（大学庶務課内）
TEL 072-641-7441
FAX 072-641-7442

社会学部支援同窓会 ソキウス総会のおしらせ

社会学部支援同窓会
ソキウス会長　メ野洋司

社会学科卒業生のみなさん、お元気にお過ごしでしょうか。今年も、11月4日（日）ホームカミング・デーの日に、社会学部支援同窓会ソキウスの第7回総会並びに懇親会を、下記の要領にて開催いたします。

開催日時　11月4日（日）13：30頃より
開催場所　大学食堂棟3F スタッフルーム
会　費　¥2,000
但、卒業後、5年間（39期～43期）は会費免除です。

連絡先（林田）
t.hayashida@topdie.co.jp
0901584995 2

準備の都合上、事前にご連絡頂ければ幸いです。
社会学科卒業生のみなさん、同期の方をお誘い合わせの上、ぜひご出席ください。
＊校友会総会・ホームカミング・デーパーティ終了後ソキウス総会は13時30分頃から開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

校友会と母校の最新情報「校友会メールマガジン」への登録をお願いします。

携帯電話とパソコンに配信しています。また、携帯用のホームページもメルマガでは伝えきれない情報を、リアルタイムにお伝えできるようになりました。メルマガ登録と携帯へのブックマーク登録をお願いいたします。

メルマガの受信は、パソコンと携帯、両方に登録できます。ご不明な際は校友会事務局までメールにてお問い合わせください。

①　②

①メルマガ登録用QRコード
http://ogu-koyukai.com/script/member_regist.php
②携帯電話用ホームページQRコード
http://www.ogu-koyukai.com/keitai/koyukaitop.html

携帯での受信には@ogu-koyukai.comの指定受信を設定してください。

心理学同窓会のお知らせ

心理学科では、今年も11月4日（日）のホームカミング・デーの日程に合わせて、心理学科同窓会を開催いたします。2号館3階2305号教室において午後2時から開始予定です。

大学は大規模なキャンパスリニューアルをほぼ終えて数年前とは大きく様子を変えています。新しい大学の姿や、今の心理学科の様子を確かめに、何度も参加いただいている方も、初めてという方もお誘い合わせの上、お越しください。

お問合せ
心理学科実験準備室
（072・641・9619）まで。

編集後記

本号会報作成に当たり、ご理解ご協力賜りました皆様方には誠を持って厚く御礼申し上げます。広報委員会には、校友会理事・評議員だけではなく、一般の会友の方や現役学生の方々も参加下さり活発に意見を交わしております。おかげをもちまして目標に少しでも近づけたかと思っておりますが、読者の皆様方から、会報に限らずHP・メルマガも含め、ご意見ご感想お聞かせ頂き、広報活動に反映できればと考えております。校友会事務局までお寄せください。

校友会常任理事
広報委員長代行
贄田（にえだ）　肇（はじめ）